

平成 25 年 6 月 11 日 Club C 会議メモ（文責：東北大・須藤）

開催場所：東北大学東京分室

参加者：阿多・関谷・安（産総研）、山内（新潟大）、小林（大阪大）、石田・古川・須藤（東北大）、総括班 下村（東北大）、公募班 馬奈木（東北大）

領域代表者の下村先生と公募班の馬奈木先生も同席して、各グループの進捗報告および議論を行うとともに、領域全体の中で Club C としてやっていくことの確認を行った。

①下村先生

- ・中間評価が来年度に入ってしまうので、C 班としてどう進めていくかが重要。

②馬奈木先生

- ・新規技術がどう評価されるかという視点で分析
- ・環境関係の技術は消費者に受け入れられるかどうかをとて気にする必要がある
- ・産業構造が大きく変わるのであればそれも加味して将来シミュレーションを行っていく

③石田グループ報告（報告者：古川）および議論

- ・ライフスタイルデザイン手法の開発を、ライフスタイルデザインの実施（豊岡市、鉄道関連）と新しい物差しによる評価を通して進めていく。
- ・ニーズ・シーズマッチング手法の開発については、A 班溝口先生のオントロジー工学をライフスタイル分解に取り入れる試み、ライフスタイルデザインから生まれた新商品やサービスの実証試験、ネイチャーテクノロジー研究会の活動を通して進めていく。
- ・環境省「環境・生命文明社会」、心豊かな暮らし方の指標（お金だけではない新しい物差し）、90 歳ヒアリング、についての新聞記事
- ・オントロジー工学を適用したライフスタイル分解はライフスタイル DB になるのか？（下村）
- ・ライフスタイル（暮らし方）と具体的な技術をどう繋げていくのが重要（下村）
- ・博物館が提供する素材（形状の SEM 画像）をある程度分類してみんなに提供するのが長谷山 DB、場合に応じてそれらを選択して提供していくものがライフスタイル DB になるのではないか（下村）
- ・オントロジーを使っていくとテクノロジーの表現が汎用的になってしまうが、それをどのようにバイオミメティクスとつなげていけばいいのか。つなぐのが Bio-TRIZ ではないか。（石田）

④山内・小林グループ報告（報告者：山内）および議論

- ・機能と形状を一緒にした情報を DB に入れていく。
- ・Bio-TRIZ（工学者のための DB）のデモ版では、改善要素と悪化要素の各々について分類化された分野から項目を詳細に選択できるようにしており、選択後に解決方法を見ると、TRIZ 的な原理リストが出てくるようにしている。原理リストからすごい自然 DB や特許情報に跳べる。特許情報のところに SEM 画像を入れることで長谷山 DB とつながるのではないか。

・Evo-TRIZ（工学者以外の人のための DB）は、より五感的なもので集約させていく予定だが、まだ詰めてはいない。Bio-TRIZ を構築していくうえで情報は集めているので、それを用いて他の形の DB を作ることは可能。

・現在、長谷山 DB もかなり進んできている。画像と情報を組み合わせて、コンピュータが勝手に外部まで検索に行ってくれる。DB の形や使い方をどうするか、他の DB の人たちと早急に詰める必要あり。（下村）→6月21日午前、下村、長谷山、山内、古川で話し合い。

⑤阿多グループ報告（報告者：阿多）および議論

・第2回 ISO 総会（フランス）報告→詳細は6月20日の報告会で

・バイオミメティクス・インベントリーを作る予定

・ある技術が社会にどれくらい浸透しているかを測る指標はないのか？ それがわかれば、C 班または生物規範工学として我々がやるべきことは何かを知ることができるし、それを外に示すこともできる。（石田）

・研究の動向に関しては論文数、社会の動向（一般人の動向）に関してはメディアでの頻出度で知ることはできるが、企業の動向に関しては見る指標がない。

・単純に企業にアンケート調査をしても欲しい情報は得られないので、どのようなことを聞くのが重要。①現在のテクノロジーの延長に未来はない、という不安はないのか？②それに対して何かソリューションを持っているのか？③こういうソリューションがあるけど興味があるか？という聞き方でできるかどうか、アンケート質問項目を阿多グループが至急検討→どこに対してどうやっていくかは今後議論（石田）

・これらの調査データが馬奈木先生の分析につながっていく

⑥その他

・ネイチャーテクノロジー研究会の来年3月予定シンポジウムをバイオミメティクス研究会と共催はどうか？科学技術館で来年3月15日～31日までの展示会は決定しているので、その期間中に科学技術館の講堂でシンポジウムを。科学技術からライフスタイルまでを一貫して。（下村）

・C 班独自のワークショップ開催（一般市民と企業に向けて）はどうか？（阿多）→問題ないので検討を（石田）

・科研費の理系スタイルで評価されるので、どう見せるかが重要。審査員の人たちは、社会とどうつながるかに重きを置いていない人が多い。なぜ社会とつながらなくてはいけないかを丁寧に言える（見せる）ようにしないといけない。（石田、下村）

・次回の班会議は佐渡で8月下旬から9月上旬にかけてのいずれかで行う。山内先生の都合のつく候補日をいくつか挙げてもらい、須藤がメンバーとの日程調整を行う。